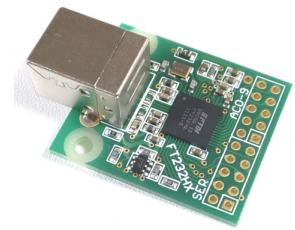




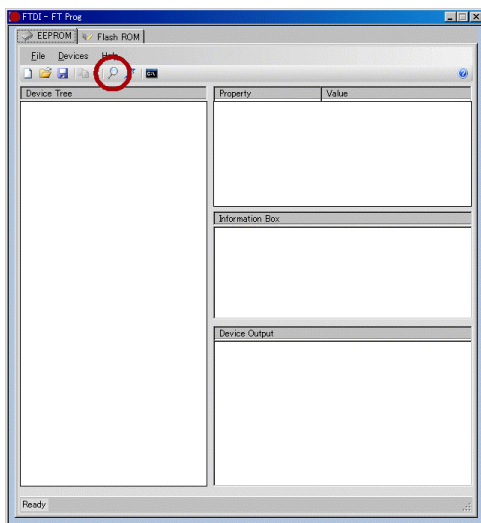
●このアプリケーションノートでは FT232H 動作モードの変更方法をご案内します。

※あらかじめ FT232HX モジュールを組み立てし、Windows にデバイスドライバを組み込んで FT232H が認識している(デバイスマネージャで表示されている)状態にしてください。

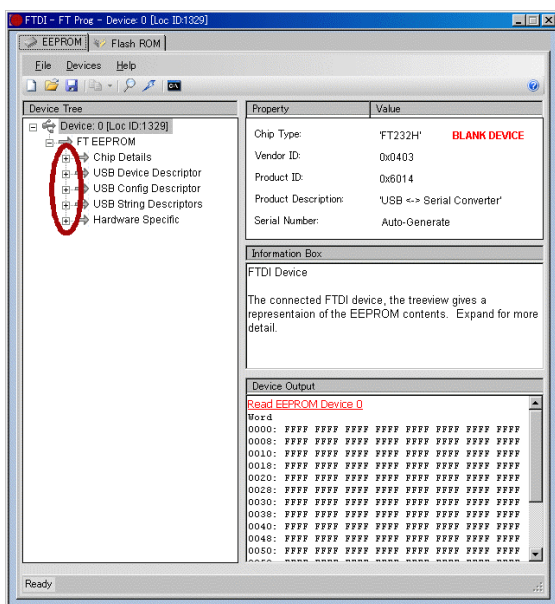


■FT_Prog のダウンロード

FTDI 社のサイトから FT_Prog のソフトウェアをダウンロードします。この原稿執筆時の最新が v2.4 です。ダウンロード・インストールが完了したら FT_PROG.exe を実行すると次の画面が表示されます。

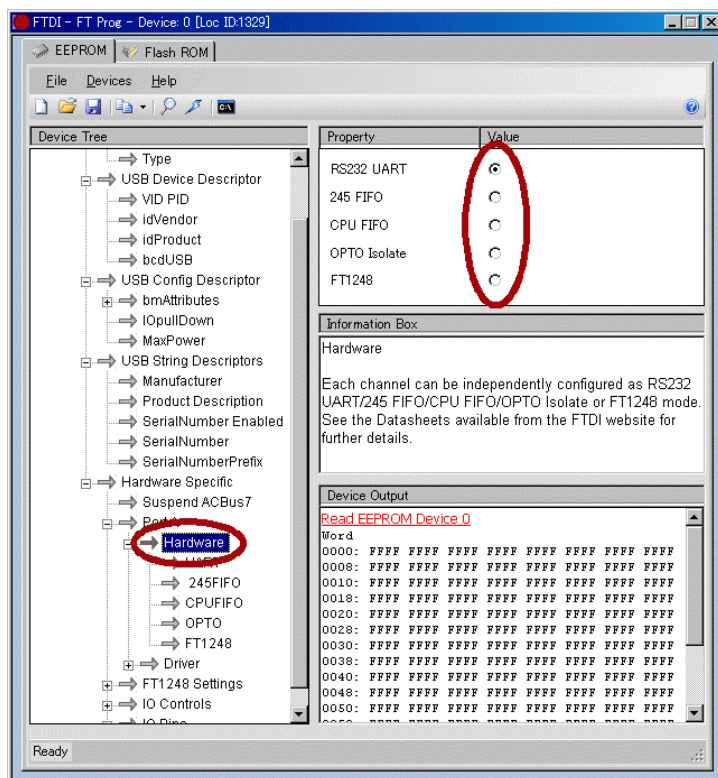


赤丸で示した虫眼鏡をクリックします。接続されている FTDI のデバイスがリストアップされます。ややこしくなりますので、FTDI デバイスを複数つないでお使いの場合は1つだけにしてください。間違えて想定していない別のデバイスを書き換えてしまう恐れがあります。

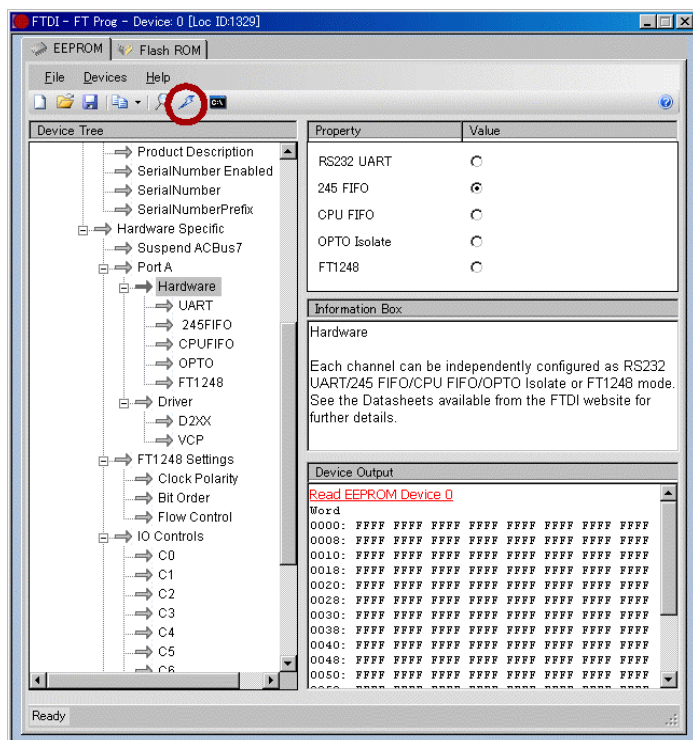


ツリービューの[+]ボタンをクリックして下位層を表示させてください。初期出荷状態では上のように **BLANK DEVICE** と表示され、EEPROM の内容が全て FFFF FFFF FFFF FFFF …となっています。

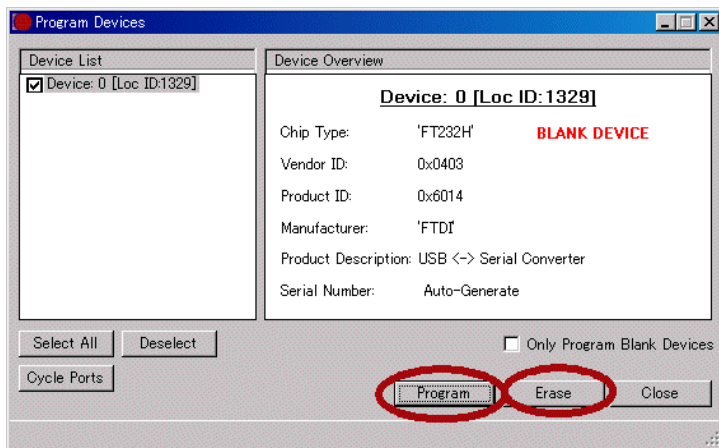
設定できる箇所がたくさんありますので開いてみてください。選ぶと Information Box に解説がでるようになっています。



Hardware のところに動作モードに関する部分があります。RS232UART(USB シリアル), 245FIFO, CPU FIFO などを選ぶことができます。選んだだけでは有効になりません。



ツールバーの稲妻アイコンをクリックしてください。EEPROM 書き込みダイアログが開きます。



変更した内容を有効にするには Program を押してください。数秒で基板上の EEPROM(93C56B)に書き込みが行われ、次からその動作モードで動くようになります。初期出荷状態に戻したい場合は Erase をクリックすると EEPROM の内容が全て FFFF にクリアされます。

【重要】VID(ベンダーID),PID(プロダクトID)などの USB デバイスの重要な項目(USB Device Descriptor)を変更した場合は次から独自のデバイスドライバ(INF ファイル)が必要になり、FTDI 社の提供するファイルが使えなくなりますのでご注意ください。FTDI 社のドライバが組み込まれていないと、この FT_Prog のソフトで FT232HX モジュールが検出できなくなり、元に戻せなくなります。

どうしても戻せなくなった場合は FT232HX モジュール基板裏面のハンダジャンパーの部分のカッターなどで切断すると EEPROM の配線が切り離され、FTDI 社のデフォルト VID, PID で動作し、USB シリアルとして最低限使うことができます。(EEPROM がないとデフォルト設定値で起動するようになってい)デフォルト状態で起動させ、FT_Prog で認識させたあと EEPROM を繋げて Erase すればいいように思いますが、FT_Prog がハングしてしまい、今のところ実現できていません。現在この裏技はできないようです。

Copyright © 2011 Strawberry Linux Co.,Ltd.
株式会社ストロベリー・リナックス 第1版 2011年10月9日